

事業再評価

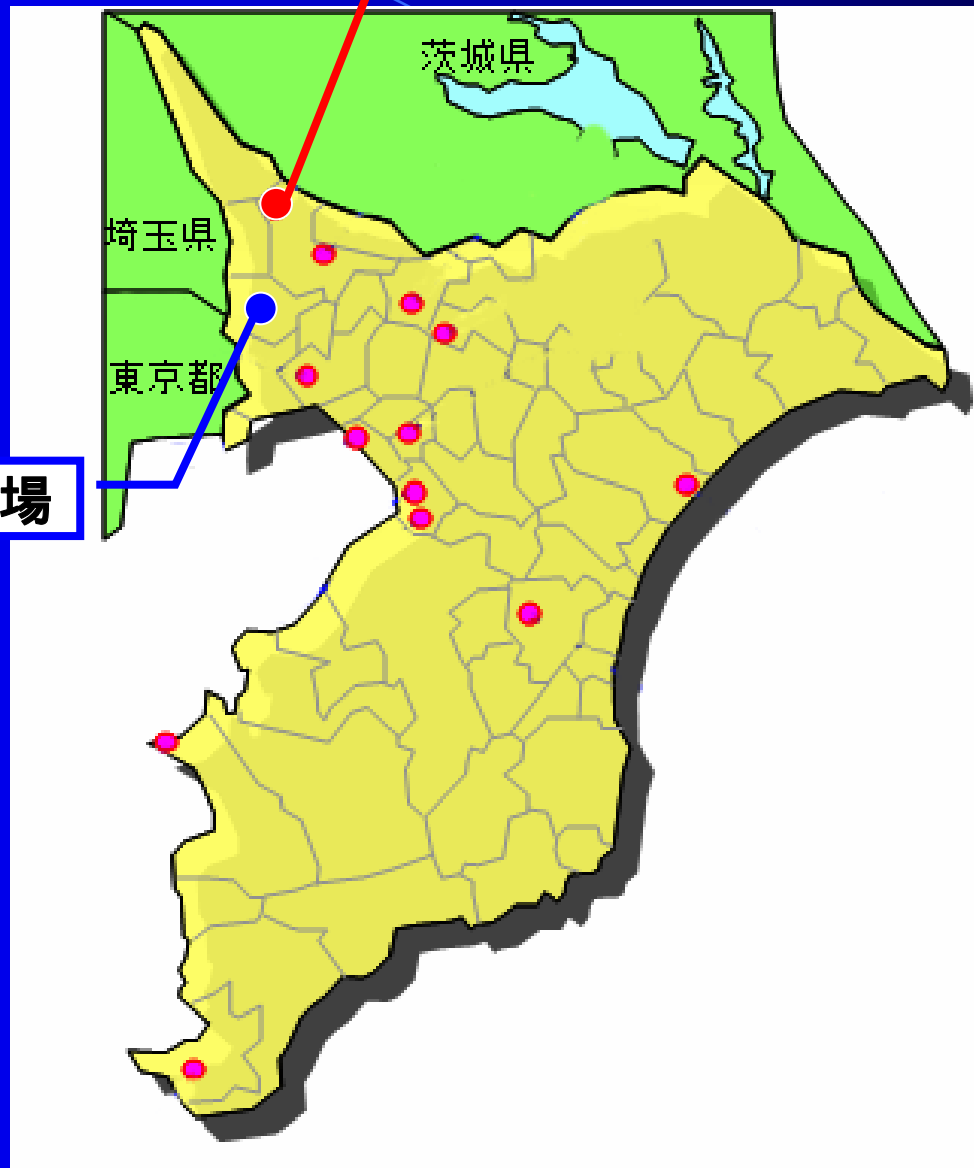
～ 都市公園事業 ～

- ・ 柏の葉公園(千葉県)
- ・ 21世紀の森と広場(松戸市)

千葉県県土整備部公園緑地課

事業箇所図

柏の葉公園



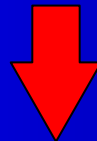
21世紀の森と広場

費用対効果分析について

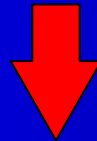
前回との変更点

『大規模公園費用対効果分析手法マニュアル』が改訂された。

平成16年2月、平成19年6月



費用(C)および便益(B)の算出方法が大きく変化



費用(C)：用地機会費用を考慮

便益(B)：直接利用価値 旅行費用法

間接利用価値 代替法

計測モデルが変更

効用関数法

費用対効果の算出

費用及び便益算出の諸元

割引率 : 4%
基準年 : 平成20年度
プロジェクトライフ : 部分供用後50年間

単年度費用の算出

- ・用地費
- ・施設費
- ・維持管理費

単年度便益の算出

- ・直接利用価値
- ・間接利用価値

総費用の現在価値
(C)

総便益の現在価値
(B)

費用対効果分析 (B / C)

費用対効果分析における便益

$$\text{便益 (B)} = \text{直接利用価値} + \text{間接利用価値}$$

1 直接利用価値 (旅行費用法)

県民が直接的に公園を利用することによって生じる価値

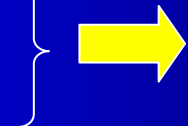
2 間接利用価値 (効用関数法)

県民が間接的に公園を利用することによって生じる価値

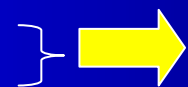
・都市環境の維持・改善

・景観の向上

・都市防災



環境価値

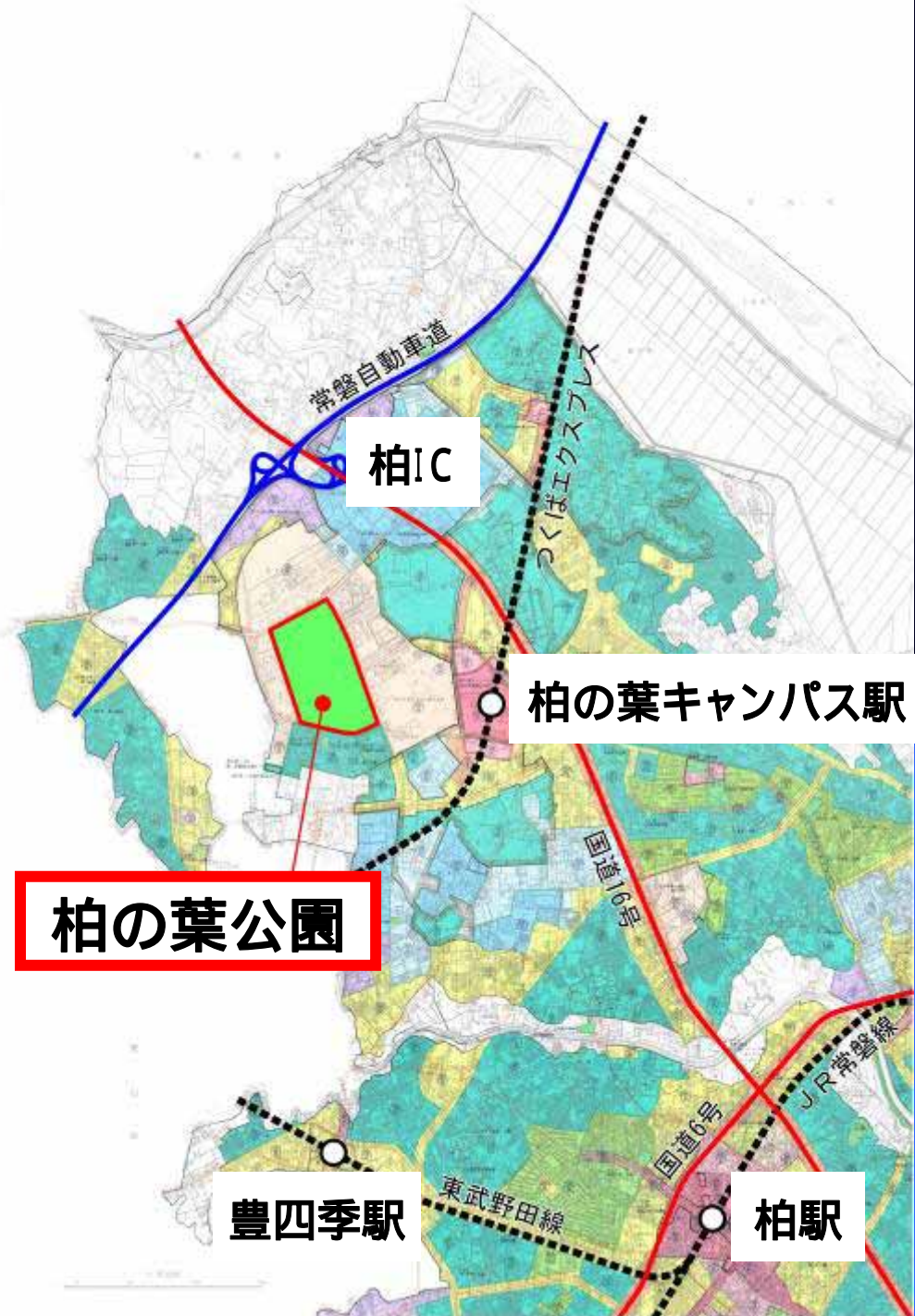
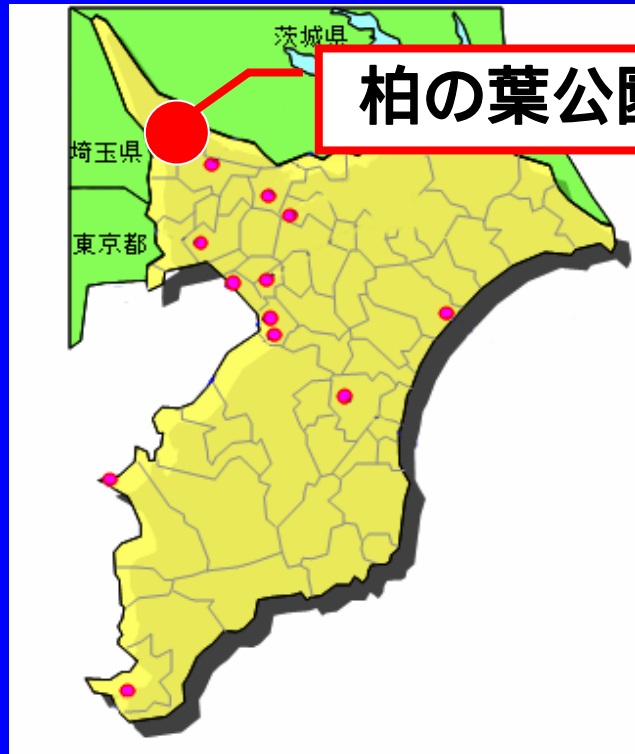


防災価値

千葉県立 柏の葉公園 国庫補助事業再評価

千葉県県土整備部公園緑地課

事業箇所図



整備状況



～ 憩いの場 ～



桜の広場



日本庭園



冒険のトリデ

～ スポーツ・レクリエーションの場～



総合競技場



庭球場



コミュニティ体育館

～ 地域防災の拠点 ～



備蓄倉庫



耐震性井戸付貯水装置

～ 地域に密着した公園づくり～



花植えボランティア



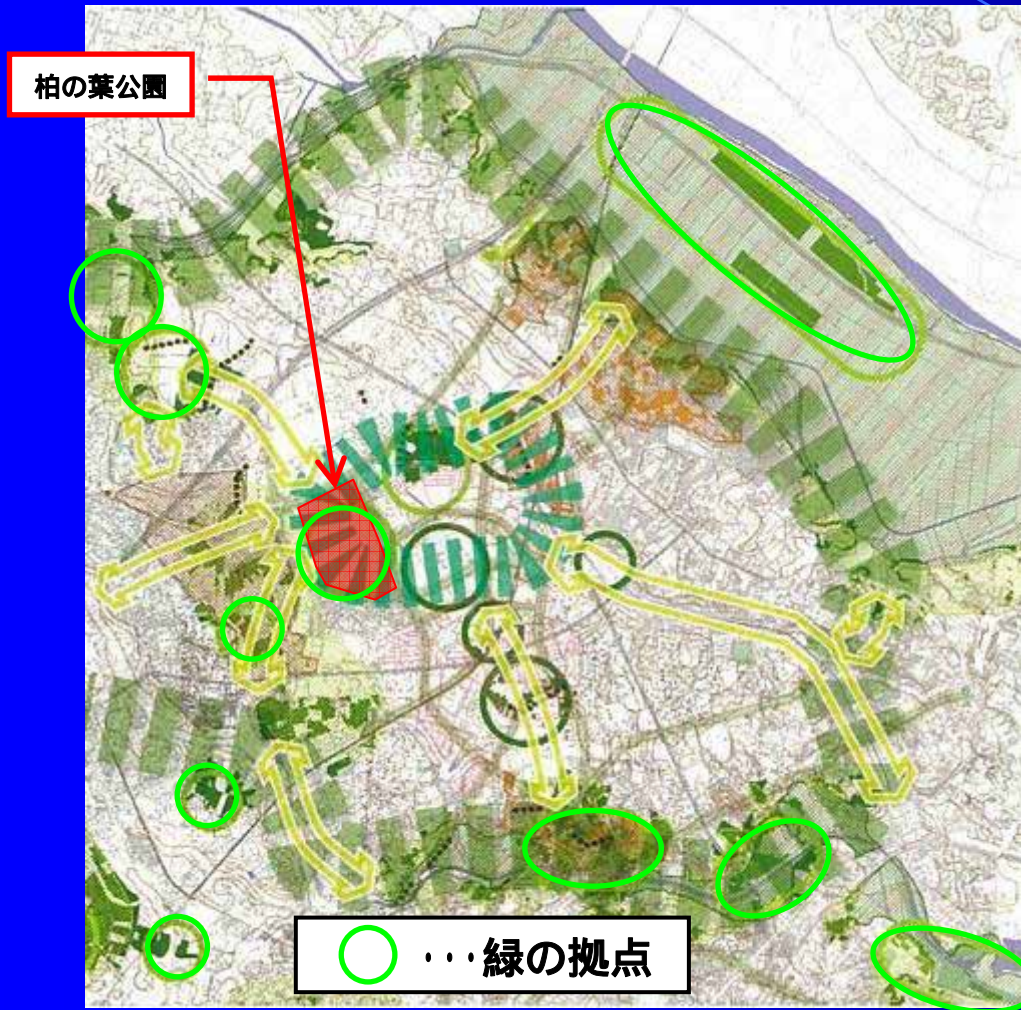
ゴミ拾いボランティア



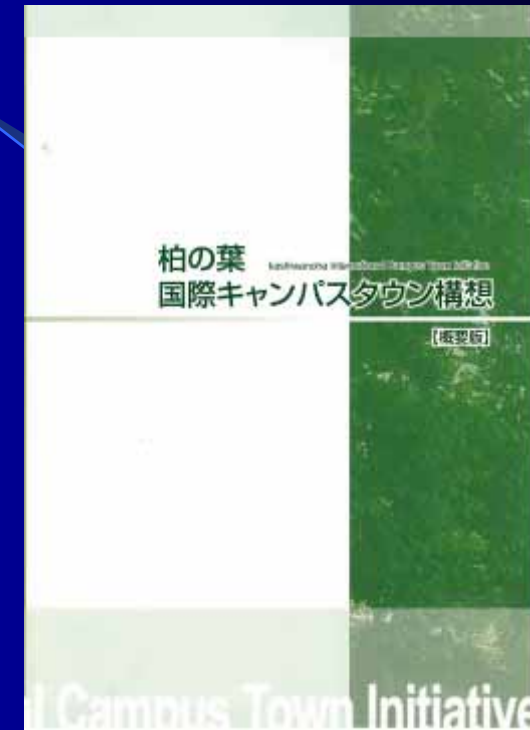
地元小学校
ビオトープ体験学習

～ 柏の葉国際キャンパスタウン構想 ～

緑のネットワーク



柏の葉地域の緑のネットワークの形成



計画的な緑地の保全と創出により、
柏の葉地域の緑被率40%を維持
する。

現在の緑被率は45%

～ 柏の葉公園野球場 ～



施設規模 : 両翼98m、中堅122m
12,000人収容
(内野:3,100人、外野8,900人)

東葛飾地域には、高校野球の公式戦などで
使用できる野球場が少ないため、地元から
早期の完成が望まれている。

費用対効果分析結果

費用の現在価値		便益の現在価値	
用地費(機会費用含)	1,190億円	直接利用	972億円
施設費	319億円	間接利用	環境 347億円
維持管理費	87億円		防災 526億円
合計	1,595億円	合計	1,844億円

B / C

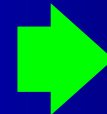
$$= \frac{1,844 \text{ 億円}}{1,595 \text{ 億円}} =$$

1.16

対応方針(案)

- 1 社会経済状況や県民ニーズ等を考慮して、プール建設計画を多目的広場(芝地)に見直したこと。
- 2 既に用地確保を終えているうえ、地元から要望の強い野球場の完成により、本公園の整備が完了する。
- 3 平成22年度開催の千葉国体までに、本公園の完成が望まれていること。
- 4 柏市の広域避難場所に指定されており、地域防災計画上の重要な施設であること。
- 5 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」における「緑のネットワーク」の主要な拠点となっていること。
- 6 地域のサポート(ボランティア等)により、県民と共に地域に密着した公園づくりを進めていること。

整備の必要性は高い



継続